



俳句ゆめクラブ会報

2022年9月27日

第 147 号

遊歩道逸れて花野へ迷ひこみ
軽やかに過ぐす残暑の日なりけり

鈴木幸恵
吉野利美子

八月は休会としたので二か月ぶりの句会、大井さん
と入れ替わりの形になった吉野さんも迎えて全員参加
で又句会を行えたのは嬉しいことである。

県活脇の田圃も刈り取り済んだのもあり確実に季節
が移って行くのを感じる、皆もこの歳になると段々と
不調も出て来るが冬の寒さに負けないようにしてこれ
からも元気で行きたいものである。

梅田先生の句

一房の葡萄一粒づつに夢
初鴨を待つ沼の面のまつ平ら
校庭に人の影ある良夜かな

梅田先生選

秋薔薇惜しまれつ逝き英女王
だんだんと夫は無口に残暑かな
うんざりや肌に纏はり付く残暑
柚子坊のただむつつりと喰ひすすむ
澄々ともものみな光る良夜かな
声高もつぶやきもあり虫の闇
稲架並ぶ山間の村暮れなすむ
検診を終えたる命秋の蟬

名月やただひたすらに手を合はず
竿よりもこの指止まれ赤とんぼ

八千代幸男
瀬戸川公子

《入選》

眼の前を縦横無尽飛蝗飛ぶ

瀬戸川公子

秋立つや値上げの波に日々憂ひ

長澤輝子

また出でて寝るには惜しき良夜かな

浅見法子

虫の音を暫し聴きつつ夢の中

長澤輝子

旅割の宿を探せる残暑かな

鈴木幸恵

血の色の鮮やかなりし唐辛子

小林健一郎

秋暑し駅のピアノに人だかり

岩松忠子

腰丈に伸びし雑草秋暑し

瀬戸川公子

口開けて息する鴉残暑かな

岡田時雄

いつの間に刈りし田圃に雀群れ

宮島昭夫

反撃の力も出でぬ残暑かな

浅見法子

新走り卓に出したる江戸切子

八千代幸男

無花果の舌にまつたりしてをりぬ

小林健一郎

石畳避け本堂へ秋暑し

宮島昭夫

天高し夢のごとくにひたぶるに

吉野利美子

国葬の世論は二分曼殊沙華

八千代幸男

また記録更新したり台風禍

宮島昭夫

ペランダに仰ぐ天心今日の月

吉澤愛子

祖先への手向けや赤き曼殊沙華

岩松忠子

終戦日大歓声の甲子園

吉澤愛子

残暑の日今年も始動コンバイン

長澤輝子

互選

秋薔薇惜しまれ逝つた英女王 (3票) 岡田時雄

一房の葡萄一粒づつに夢 (4票) 梅田ひろし

だんだんと夫は無口に残暑かな (3票) 吉澤愛子

初鴨を待つ沼の面のまつ平ら (3票) 梅田ひろし

口開けて鴉息する残暑かな (3票) 岡田時雄

声高もつぶやきもあり虫の闇 (6票) 岡田時雄

名月や言葉いらずに手を合はず (6票) 八千代幸男

〔決定事項・連絡事項〕

・次回句会 10月25日(火) 13時より

県活 2022号セミナー室

兼題 「秋うらら」 (当番:瀬戸川、長澤)

他に自由題で二句、合計三句提出のこと。

・後期会費を徴収するそうですので、ご用意下さい。

・今回は12名全員参加。

(小林健一郎記)